

日本体育大学大学院

令和8年度入学者選抜【出題の意図・解答又は解答例等】

研究科・課程	体育学研究科・博士前期課程
学位プログラム	コーチング科学学位プログラム、 コーチング実践学学位プログラム
実施期	Ⅱ期試験
試験科目	筆記試験（専門科目）

【出題の意図・解答例】

コーチングに関する基礎知識を確認するために、専門領域より問題を出題する。

問題(1)

(出題の意図)

この問題は、現代社会におけるインクルーシブな指導理念の理解と、それをスポーツ現場でどう実践するかを問うものである。ジェンダー・文化・障害といった多様性に対する倫理的・社会的感受性を持ち、具体的な対応策を提示できるかどうかを通じて、受験者の社会的責任感と教育的成熟度を評価する。

(解答例)

現代のスポーツ現場では、ジェンダー、文化的背景、障害の有無など、多様な属性を持つ選手が共に活動する機会が増加している。コーチはこの多様性を理解し、偏見や差別のない包括的な指導を行う責任がある。例えば、ジェンダーに配慮した言語使用や、文化的価値観を尊重したコミュニケーションは、選手の安心感と信頼関係の構築に寄与する。また、障害を持つ選手には合理的配慮を行い、個々の能力を最大限に引き出す環境づくりが求められる。こうした配慮は、選手の自己肯定感やチームの協調性を高めるだけでなく、スポーツを通じた社会的包摂の実現にもつながる。多様性を尊重するコーチングは、競技力向上と人間的成長の両立を可能にする重要な指導理念である。

問題(2)

(出題の意図)

コーチングを実践するなかでコーチングの目的と役割を理解していることは非常に重要であり、加えて、そうした目的と役割のつながりを理解することも重要であるため、このような問題を出題した。

(解答例)

コーチングの目的はさまざま考えられるが、例えば、コティとギルバートが指摘するように、「アスリートの有能感(Competence)、自信(Confidence)、関係性(Connection)、人間性(Character)を向上させること」が挙げられる。これは、頭文字をとって「4つ

の C」などとも呼ばれる。他にも、「アスリートとチームの卓越性を向上させ、発揮させること」などもコーチングの目的と考えられる。勝利をコーチングの目的とする考え方もあるが、そのように考えた場合、試合では半数は勝利するものの、半数は負けるわけであるゆえに、多くのコーチが目的を達成できていないことになってしまうため、勝利は試合における目標にはなるが、コーチングの目的には含まれない。それゆえ、コーチングの目的としては「4つのCの向上」や「卓越性の向上と発揮」がより適切と考えられる。

そうした目的を達成するためのコーチの役割についてもさまざま考えられるが、国際コーチングエクセレンス評議会が挙げているように、「ビジョンと戦略の設定」「環境の整備」「人間関係の構築」「練習での指導と競技会への準備」「現場に対する理解と対応」「学習と振り返り」がある。コーチは、競技会に向けて練習を実施することが主な役割と考えられるが、コーチングの目的を果たすためには、それ以外のさまざまな役割も十全に果たしていく必要がある。昨今は、コーチ自身が自身の実践を振り返り、学んでいくことの大切さが、以前と比べて強調されるようになってきている。